

## 令和7年度 第2回櫛引地域振興懇談会 会議録

- 1 日 時：令和8年3月19日(木) 14:00～16:30
- 2 場 所：櫛引庁舎 第1会議室
- 3 出席者：委員 高橋 治郎、伊藤 司、三浦 和彦、三浦 雅浩、安野 良明、  
平籾 久喜、佐藤 正幸、上野 由部、秋山 彌里、清和 ふみ子、  
本間 与一、宮城 妙、叶野 由佳  
(欠席委員) 上野 祐希、渡会 美香  
櫛引庁舎 支所長 伊藤 幸、総務企画課長 遠藤 直樹、  
市民福祉課長 齋藤 芳、産業建設課長 大宮 将義、  
総務企画課長補佐(兼)まちづくり企画調整主査 菅原 勝善、  
市民福祉課長補佐 河井 利恵子、産業建設課長補佐 佐藤 隆一、  
総務企画課未来事業推進員 渡部 綾  
本所 地域振興課主査 渡部 久美子
- 4 会議次第  
[新委員の紹介]
  1. 開 会
  2. あいさつ 伊藤支所長
  3. 説 明・報 告  
(1) 前回までの櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について
  4. 懇 談  
(1) 櫛引庁舎主要事業について (櫛引庁舎)  
(2) その他
  5. そ の 他  
(1) 公共施設利用料金等の改定について (櫛引庁舎)  
(2) 鶴岡市の公共交通政策について (地域振興課)
  6. 閉 会
- 5 会議資料  
説 明・報 告  
(1) 櫛引地域振興懇談会 令和7年度1回目意見対応 [資料1]  
懇 談  
(1) 令和8年度 櫛引地域振興計画に基づく庁舎事業 [資料2]  
そ の 他  
(1) 公共施設利用料金等の改定について [資料3]  
(2) 高齢者等外出支援事業補助金に係る市民負担額の変更  
高校生等通学費支援事業に係る市民負担額の変更 [資料4]
- 3 説明・報告  
(1) 前回までの櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について (支所長説明)

#### 【I 委員】

1 ページの 2 の、櫛引の中心市街地についての回答に、「それまでに市民アンケートも行う予定」とあるが、これまでにアンケートを行ったのか、これから行う予定なのか伺いたい。

#### 【地域振興課主査】

地域振興課では現在、鶴岡市地域公共交通計画の策定作業を進めており、今月末に協議会の承認を得てから公表という形で準備を進めている。市民アンケートについては、昨年10月に、無作為に選出された1000名の方に郵送させていただき、かつ、Webにてアンケートを実施している。回答は、1210名の方から回答をいただいている。地域バランスなどを見ると、各人口の割合に即したような形で回答いただいているような状況だった。回答結果は、市のホームページの鶴岡市地域公共交通活性化協議会のページに概要版を載せているので、ご覧いただければと思う。アンケートの内容としては、どのような移動手段を使っているか、買い物や病院はどの辺りに行っているか等、交通に関する分野を中心にアンケートをとっている。回答いただいた方の移動動態にはなるが、そのような情報を把握しているような状況。櫛引地域の場合としては、デマンド交通が東地区に入っていて、それを利用して櫛引のヤマザワまで行き、そこで朝日から来る路線バスに乗り継いでいく。もしくはミーナまでデマンドタクシーで行き、そこから循環バス、または路線バスに乗り換えて市街地の方へ行くような形でお願いしている。

## 4 懇談

### (1) 櫛引庁舎主要事業について（各担当課長説明）

---

#### 委員より意見・質問

---

#### 【H 委員】

宝谷の道路公共事業だが、この1500万円というのは令和8年度の予算になるのか。工事の距離は決まっているのか。

#### 【産業建設課長補佐】

令和8年度の予算になる。距離はまだ決まっていない。

#### 【支所長】

現状どのくらい工事が進んでいて、1500万円の予算でどのくらい進めることができるか目途はわからないのか。

#### 【産業建設課長補佐】

工事費等が上がっていることもあり、はっきりとしたことは言えない。現時点で4分の1程度(約100m)進んでいる状況。

#### 【H 委員】

令和7年度は50mくらいしか進まなかったようで、1年に50mほどとなると、できるまでどれだけ時間がかかってしまうのかと思ってしまう。

#### 【産業建設課長補佐】

道路以外の部分も工事していたので、道路の距離だけでいうとそのくらいしか進まなかった。令和8年度は令和7年度より500万円ほど多く予算は付いている。

#### 【E委員】

黒川能上座宝蔵庫の改修の件で、修繕の内容が、防災と防火のための修繕となっているが、確かに火災から守るのも大事だが、中にある道具や能面などに対する保護の対策もあった方がいいと思う。例えば、中に保管されているものは大変湿気に弱いと思うので、空調設備を入れるとか、そういうふうにしなないと逆に保管してるものが悪くなってしまうのではないかと思うので、もう一つその辺を考えたほうがいいのではないかと思う。

#### 【総務企画課長】

まず外壁の補修については、外壁を直すことで西日から守るという部分がある。その部分については、国の補助対象になるということで、まず既存の建物の外壁を直すことが国の補助事業で、そのほかに増築したいという希望もあり、増築部分については、国の補助事業に付随する事業ということで、市から半分の補助があり、その増築する際に、空調設備も入れる予定である。

#### 【F委員】

私の方は下座で、昭和40年代後半に収蔵庫が建った。そのときは蔵建てで、実際に土壁で出来ている。土壁の厚みも業者にお願いして作っていただいたのだが、やはり自然に呼吸してくれるので、中のものがあまり遜色ない状態で保管できている。

また、伝習館の中にも収蔵庫がある。その収蔵庫の空調設備が壊れてしまい、1~2年ぐらいそのままになっていた。そうしたら能面が1個、全面カビだらけになってしまった。とても貴重な能面で、これを補修するためにどうしたらいいか、今探ってるところ。

我々が持っているものは国指定など、結構幅広いので、空調設備などは保管する上で神経を使わないといけないと思う。

#### 【総務企画課長】

今回上座の収蔵庫の改修のときに、国の調査官に相談したところ、空調設備がなくても、保管はできるという判断をされて、国の補助の対象にならなかった。

しかしながら、実際、能面がカビだらけになってしまったという事例もあるわけなので、その都度その都度、文化庁と相談しながら進めていくことになるかと思う。

#### 【E委員】

くしびき温泉ゆ〜Townの活性化事業の中で、地域の菓子店と連携したゆ〜たんのオリジナルスイーツの考案という取組があるが、例えば、産直めぐりとも提携して、フルーツパフェを作るとか、ゆ〜Townに来なければ食べられないようなものを考案したほうがいいのではないかなと思う。

#### 【市民福祉課長】

現時点で考えているものとしては、ゆ〜たんの焼き印をした焼き菓子などを考えておりますが、詳細についてはこれから詰めていくような状況にあるので、ぜひ本日は産直めぐりのJ委員さんもいらっしゃるの、ご相談にのっていただければと思う。

#### 【C委員】

先日、観光協会の理事会を開いて、様々な組織の方々の意見等を拝聴した。その中で、「フルーツの里」というのは、櫛引がずっと力を入れてきた状況なのだが、残念ながらその関係者の話の中で、さくらんぼだけでなく他の果樹に関しても、出荷量がずっと減っている状態。

その原因はいろいろあると思うが、果樹農家は実際減っているのかどうか。また、面積的にも減っているのかどうか。あるいは気候の影響で減ってしまったのかなど。当然、地元としては大変不安に思ってるところだと思うし、農家の方々も一番心配なところだと思う。

放任の樹園地、もしくは伐採してしまったような樹園地は、もう再生が難しいような状態

にもなりつつあるのかなというふうに思う。

ただ、若い人たちも増えてるので、その辺に期待したいという意見もあった。そのことについて、市としてはこれからのことをどのように考えているのか。

私達も、それを観光に結びつけるにはどういうようなものが必要なのか、いろんな形で模索してる。

とりあえず2年前から、朝日との連携を強めていこうということで、六十里越街道等を中心として、色々な勉強会を行い、昨年モニターツアーまでこぎつけたことは大変有意義な結果であったと思う。

その反省点を踏まえて、どのように具体的に誘客に結びつけるのかというのは、大きな課題としてある。先ほどデマンド交通の話もあったが、それは地域住民の足の確保であって、観光に携わる方々や観光客に対する足の確保という面は、どのように考えているのか。

当然、櫛引、朝日だけの問題ではなく、周辺にも広めていきたいという、ある意味での広域化というのは当然、必要なこととして、我々も検討はしている。いろんな勉強会も含めて、協調できるものがあるかというも模索している。

羽黒は羽黒でという形ではなく、全体的にこの南部エリアと鶴岡市の周辺部分をどのようにつなげていくのか。櫛引の存在、黒川能を中心とした観光に対する、誘客のやり方がどういうふうに必要なのか、大きな課題があると思っている。

その辺の具体的な方策も大いに庁舎の方々からも検討して欲しいし、我々観光に携わる人で勝手にやれば良いというふうに投げ出されても困るし、とてもできるような状態ではない。逆に私たちから言わせると、庁舎の方々は本当に櫛引を知っているのか、というのを投げかけたい。櫛引はどうあるべきだ、この地域はどうあって、今後の発展につなげていくのかということ、庁舎の方々自ら考えて欲しいという気持ちも持っている。

若い人たちが今頑張っていて、くろかわ農人を中心に、昨年、秋の大感謝祭で、あれだけの人数を集めた。大変盛り上がってよかったと思うし、水焔の能にも少し流れた方々もおられたということで、大変効果的なものだったと思う。

しかし、残念ながら、今年予算は20万。貴重な財源ではあるが、気持ち的には大変残念に思っている。このような姿勢では若い人たちを支援しようということが、薄れるのではないかな。やはり「もっと協力的に応援しますよ」「頑張ってください」「我々も力を出しましょう」というような形に持って行って欲しいと思っている。その辺をこれからの新年度の執行を含めて、どの様に進めていこうとしているのか、もしお答えできたら大変ありがたいと思う。

#### 【支所長】

たくさんご意見をいただきありがとうございます。大きく分けると、農業振興、特に櫛引の場合フルーツ振興をどうやってやっていくのかという現状と把握も含めた部分と、観光果樹園など支援を観光振興にどう結びつけるかと、大きく二ついただいたと思うので、私の方から最初の農業振興、フルーツ振興をどうするかということについて、最初に私がお答えさせていただいて、そのあと産業建設課長から観光のことについて、お話をさせていただきたいと思う。

地域振興計画に掲載しているとおり、櫛引の農業振興はまずフルーツ振興だというふうに思っている。米の価格がすごく上がっているんで、鶴岡市全体の農業産出額が高くなってくると思うが、ただ、例えば砂丘メロンや櫛引の果樹等はどうかというところ、そこはちょっと微妙だと思っている。C委員からいただいた意見で、なんで木を切ったり、生産量が落ちるのかということ、担い手の高齢化と減少が原因だと思う。それに加えて、ここ最近では異常気象により、特にサクランボなどはすごく被害が出ており、なかなか育たないようである。佐藤錦などの高温に強くない品種もあるので、山形県全体で、吉村知事が先頭に立って、まずさくらんぼの復活に向けて、県レベルで予算化をしている。例えば、ミツバチの購入支援もするし、それについては市も協調して支援をするような状況。櫛引については、特にさくらんぼは今年1年力入れてきたのだが、やはりなかなか持続できなくなってる状態にある。

そのネックは何か調べたところ、具体的には雨避けハウスのナイロンかけが、結構高いところに上がったりしないといけない。そのため、危険で重労働の雨避けハウスかけだけでも分

業できないかという話があった。

話を戻すと、農家が高齢化で減っていく。この特効薬というのは、減った分、若い人や新規参入で担い手が増えればいいのだが、鶴岡市は SEADS という学校はあるが、大体、7、8 人ぐらいしか新規就農者にはなっておらず、今年の実績を見ると、果樹をやる人はゼロだった。

このような状況の中で、先ほど言った農作業受託組織を作って、ネックとなっている作業を委託に出すことで、農家の方々がもう少し続けていけるようにしたいと思っている。繰り返しになるが、なかなか担い手の確保というのは難しいので、今いる農家の方々にもう少し頑張ってもらえるか、新規参入や大規模経営化している人を、県や国の補助事業を使って、伴走支援するとか、そういうところで進めていくしかないと考えている。

#### 【産業建設課長】

次に、観光の取り組みについて、どのように考えていくかというところだが、昨日の櫛引観光協会理事会には私も参加させていただいて、今年度の南部エリアの広域周遊で、モニターさんからいただいた意見を細かくご説明した。冒頭に支所長からもあった通り、やはり櫛引に関しては、フルーツ振興という部分で観光果樹園での果樹のもぎ取りと、農作業をプラスした体験というのが、外国人には好評だったということをお話しさせていただいたのだが、これはあくまでも外国人目線で行った時の体験コンテンツということになっている。

この地域振興計画では、KPI を櫛引地域の年間の観光入り込み者数を目標に掲げており、令和 10 年度には 80 万人を目指すというふうになっている。現状は、令和 6 年度では櫛引エリアでは 67 万人で、今年度も少し右肩上がりでこのままいくかと思って期待はしていたのだが、残念ながら前年より若干下回るというふうにとらえている。

櫛引エリアの主要施設の 11 施設の中では、産直あぐりの入込者数が、県の統計に反映されている。櫛引エリアの年間入込者数の割合の中では、7 割が産直あぐりとなっていることから、産直あぐりにどれだけ来ていただくかというのは重要な視点というふうに考えている。

フルーツ振興につきましては、生産振興と産地 PR を両輪で行いながら、この地域に人を呼び込みたいと考えている。また、歴史文化という部分では、外国人の方には着付け体験であったり、能面つけ体験も、大変好評を得ている。こういったコアな層に響くのは歴史と文化というところで、櫛引地域の振興計画の三本柱を推進することによって、この KPI を達成していきたいと考えている。

また、水焔の能と同日開催した秋の大感謝祭の予算規模についてだが、当日は水焔の能や様々なイベントを同じ日に集中することで、一つのイベントの相乗効果を次年度は考えていきたいなと思っている。しっかり観光協会の皆さんの意見を聞きながら、イベントなどの伴走支援は引き続き行っていきたいと考えている。

あと、観光二次交通の質問があったが、こちらは本所の予算で、今年度二次交通に関しては、確か 800 万円ほど計上をしている。ただ、どのような仕組みになるかというのはこの場では、詳しくはお答えできないが、様々なアプリを活用しながら、出羽三山や、公共交通機関が少ないところに、例えばタクシーやバスなどの配車をうまく行えないかというような取り組みを考えているということだった。

#### 【C委員】

秋の大感謝祭に関しては、予算があまりなかったので、お金をかけないように、知恵を出しながら今年度はやっていた。これを続けていくにしても、それなりの予算があれば、もっと取り組めるものがあつたはず。私はそれが今後の期待だと思うのだが、前回はこれくらいだったからそれよりちょっと出したからみたいな話では、やはりそれではもの足りないなと感じてる。

フルーツに関しても、もう 1 年延農して何とかなる話ではなく、もっと具体的にどういう形にしたら、果樹農家の支援になるのか。そこが大事なところだと思う。今の状況で、一番作業が大変なところに組織を作って支援する。だが、その組織はどういうふうにするのか。高齢者や地元の人を集めて作るのか。シルバー人材センターではそんな高いところには上げられない。

#### 【支所長】

今の組織づくりというのは、そういう方ではない。受託組織は別にあり、下山添の方たちから受けてもらおうと思っている。あと2年3年しか延農しても意味がないというのはその通りだが、2年3年で果樹農家が担い手として就農するかっていうのも、これも現実問題として、非常にハードルが高い。結局そこはなぜかという、先ほどから話をしている、県や国でいろんな支援メニューがあっても、実際やろうという人が出てこない。思いのない人に行政が手を差し伸べて、こういう補助メニューがあるからどうですかと後押ししても、結局失敗すると、役場から言われたからやったけど失敗したと言われるのは避けたい。

#### 【I 委員】

農家としてお話をさせていただければと思うが、SEADSに関しては、果樹を専攻したいという人はあまり選ばないかもしれないようなカリキュラムになっているのを感じた。なので、鶴岡市に就農したいと言って、SEADSに行くと、果樹を本格的に学べるかどうかというのは、果樹専攻はできないのではないかなという印象だった。

果樹農家としては、私たち世代の農家さんが同じエリアにはいない状況なので、一番危惧しているのは、一緒に農家として取り組んでいる若手の仲間が欲しいというのが切実なところ。やはり高齢者の方で、環境の変化だとか、あと資材費高騰もすごい影響ありますし、さくらんぼに関しては、栽培の難易度が非常に高い作物とされている。野菜とか他の果樹に比べて、難易度が高いらしい。

資料にもあったが、データベースでのマッチングを進めて、新しく就農する人や農地を引き継ぐ仲間が欲しいと思っている。

#### 【支所長】

I 委員がおっしゃったように、櫛引で農業をしている方がもう少し面積を増やすとか、米農家の法人化が進むことで、米もしながら果樹をやるとか、大規模経営をして、他の果樹部門を作ろうかという思いがないと具体化していかない。

データベースについては、ホームページに載せて、そこにいろんな方が手を挙げて借りるかと言うと、それも難しいと思っている。

SEADS が何でそういうカリキュラムになるかという、どうしても2年ぐらいで就農しないといけないので、当然1年ごとに勝負できるような作物を選ぶ。だから、果樹というのは未収益期間があるため、ある程度長期スパンで考えていかないといけない。櫛引の果樹農家に、研修で受け入れてもらって育てていくという取組は、すでに SEADS でアプローチしているはず。だが、自分が確認したところだと、去年も今年もなかなかうまくいかず、現実には厳しい状況。

#### 【I 委員】

全然違う話になってしまうかもしれないが、今の状況は「フルーツの里くしびき」となるほど多品種多品目がある。それをどれぐらいのメンバーで維持していかないといけないのかなってところもある。潔く辞めていく人達もいる中で、観光との兼ね合いとか、産直あぐりの品数などの問題もあると思うが、正直どういう考え方でやっていったらいいのかなと思うことがある。

#### 【支所長】

例えば JA 鶴岡のメロンだと、JA 鶴岡の中にメロン部会というのがあって、今年はこれだけの人数で、これだけの作付面積で、これだけの売上目標を立てました。それに向かって一丸となってやってみようという団体がある。12億ほど売上があるが、その中に130人ぐらいしかいないのだが、130人で割ると800万ぐらいが1人当たりの売上で残る。何となくお金が見えるので、若い人たちが育っていく。

それを櫛引地域の少量多品目でやってみようとなると、櫛引地域の果樹園をこういうふうには振興していきましょうと示すのは、櫛引庁舎がやることではないと思う。本当は庄内たがわ農協や産直あぐりあたりで示してもらった方がいいと思う。

## 【B委員】

今の根本的な問題だが、例えば櫛引地域で、令和7年の4月で人口が6308人、男性が3012人、令和8年の1月で人口が6216人。差し引きすると、1年も経ってないうちに86人減少している。そのうち、男性が48人だった。ということは、引退された大先輩もいらっしやると思うが、まだ営農されていた方とかもいらっしやると思う。

農協の方も、正組合員、准組合員含めて、毎月のように少しずつ減ってきているのが現実にある。正直、維持というのは、やはり本当に難しいテーマの一つだと思う。でも現実、残っている面積をどう集約してどういうふう地域を守っていくかということ、役所も含めて今検討をしてるような状況。

しかしながら、なかなか全面積を守っていくことは、容易ではないというふうには考えている。なおかつ、去年は熊の出没も多発し、果樹などの食害や、秋田は人災が出たりしていて、観光客の数も激減している。そういった部分がもし櫛引でも、フルーツ狩りをしている時に、熊やイノシシから襲われ、怪我をしたり亡くなってしまったりしたら、もう観光どころの話ではなくなる。

やはり農業維持も含めて、その農作業にも行けないとか、山菜とりにも行けないとか、そういう問題が今発生している。そのために、農協も鳥獣害対策に対して予算を取りますし、国に対しても支援要請も現在している。ですから、観光往来も非常に重要なことだが、やはり農業振興の部分の経済的立場、生産者の生活を守ることと、また、そのことを観光要素として、観光資源として受け入れることも、精査する上で、かなり慎重にやっていかないと、どちらかが突出しても、なかなかうまくいかないような事案だと思う。

現実論としては、1年経たないうちに男性の人口が、櫛引地域だけでもこのぐらい減っている。そこに対して就農者40人50人と入るわけではないので、どうしてもこのスピードは止められないと思う。

これがもう10年後というスパンで見たとき、ベビーブームの大先輩たちの年齢の方たちが、農業を引退するとなった場合、このスピードはもう少し加速してしまうのではないかなというのは、現状で見えている現実だと思う。

## 【D委員】

鶴岡市櫛引地域に住んで、生き生きとした生活を営みながら、やはり櫛引がいいなと思ったり、他の地域の人たちも櫛引に住みたくなるようなまちづくりをどうしていくかということ、今いろいろと話してると思うが、結局、地元の人たちに元気がなければ続いていかないと。

まず地元をいかにして元気にしていくか。ここから発展的にいろんな事業展開ができるということだと思う。今、農業の話、或いは観光の話もいろいろ出てますけども、現実はやっぱり、将来のことよりも、今生き延びていけるだろうかという切実な思いが、農家の人、或いは地域の人達全体の声だと思う。

例えば、農業だと、先ほどの意見にもあったが、去年からも熊対策というようなことで、全国的に話題になっているが、危なくて外に出られない状況。だから、農業だけではなく、山菜も取ってこれないという状況からすれば、やはり地域全体の産業は、ぐっと幅狭くなると思う。なのでそういうところをきめ細かに解消していかないと、本当に伸び伸びと仕事ができない。櫛引地域では、果樹を次々と伐採するところが増えている。1回切ってしまったら、元に戻るまで何十年もかかるということ、みんな知りながらも、地域の連携というのが薄れてしまっている。

何か困ったら、みんなで声を掛け合って、予防策をとりましょうというような流れが、今一番求められてると思う。

産直めぐりは山形県の中ではトップクラスで頑張っていると思うので、フルーツ振興を図るのだとすれば、産直めぐりを核にして、地域全体をどうするかということ、みんなで本気になってやっていると、実現していかないと、いけないと思う。観光も絡んでくるが、今年は、酒田港には20回もクルーズ船が来るそうで、1回来たら4000人も降りるという話だった。一カ所だけの観光地に集中する流れから、庄内全体、或いは櫛引にもぜひ来てもらい、滞在中の行程に組み込めるぐらい、何か変えていかないと駄目だと思う。

例えば、たらのきだいスキー場についても、冬だけの施設ではなく、年間を通して活用できる施設にはできないのか。他のところでは、春には花畑にしていたり、観光事業の一つとしてとらえて、PRして人を呼んでいくために、自分たちが作ったものを販売したり、いろいろなことをやっていて、地域が生き生きしているところはたくさんある。それには仕掛けも必要だし、地元の人たちが力を出せるようにすることは、本当に大事なことであるというふうに私は思っている。

或いは、産直あぐり周辺も、もっと周辺の整備をすることによって、1日ゆっくり遊んでいけるような施設づくりもできるのではないかと思う。

極端な話をすると、庄内たがわ農協の事務所が場所を移るという話は皆さんご承知だと思うが、第1回の会議で、櫛引の中心市街地はどこなのか、これからどうしていくか、というような話もあったようだが、もし金融機関が移動してしまったら、交通の足のない人達はもっと不便になってしまう。それらを今度は行政としてどうしていくか。いろいろなことを考えると、やはり横の連携、或いは単発的なイベントから年間継続性のあるものにつなげていくかということなどが、非常に大切なポイントになるのではないかと感じている。

### 【G委員】

ゆ〜Townについて、西地域には産直あぐりがあるが、東地域にはゆ〜Townがあるわけだが、その施設の活用の仕方について、職員も一生懸命考えているとは思いますが、第三者として私も考えていることがある。

まず一つは、温泉に入りに来る人のために他の行事も色々やっているが、それには大体30人ぐらい参加されているようだった。これも参加者をもっと増やすことができると思う。

また、各地区の順番を示しているが、それはただやっているだけで、そこに委員のような人がいなければ進まないと思う。遠いところからだと、松山から温泉に入りに来ている方もいるようなので、ゆ〜Townの温泉は良いということは間違いない。

また、人を集めるには食堂もちゃんとあったほうが良い。3ヶ月もすると店を閉めてしまうでは困る。

それから、第2の産直あぐりではないが、東地域にもそういうものを売ったり、提供するところもあったら、さらに人が増えると思う。

それから、実際考えてみると、500円という利用料金は、家族3人で来るとなると1500円の出費になる。この辺もいろいろ工夫できれば、もう少しゆ〜Townの経営も良くなると思うし、どうしても必要な機械等は何円であっても投資しなければならない。これから前向きに考えれば、今以上にいい結果が出られるのではないかと思う。

### 【J委員】

先ほどから産直あぐりの名前をたくさん出していただいておりますが、我々もこの櫛引の中で、フルーツ振興をするという役目を最大に担っているという自覚はもちろんある。その中で、やはり生産者の高齢化や、園地継承の問題というのは、産直あぐりの中でも実際に発生していることでもある。

さくらんぼに関しては、お店の方に来られてご存知の方も多いかもしいないが、ここ数年は本当にさくらんぼがない状態がずっと続いている。お店の方でも、セールスをかけようとしても、そのセールスをかける元になるさくらんぼがないというような状態にある。そういった状態が近年続いていて、生産者も減っている、収穫量も減っている。

そのような状況の中で、園地継承の問題にも、皆さんそれぞれ頭を悩ませながら、取り組んでいるというような状況がある。

そのさくらんぼについては、自分のところで抱えてる生産者のことしかわからないのだが、その生産者の中でも、今年はお2人の方がさくらんぼの木を切ってしまわれたという情報は把握している。

先ほど、県のデータベースの方で、というような話もあったが、果樹に関しては、園地を出します、貸します、売ります、としたところで、なかなか接点がない中での貸借は非常に難しい。

我が子のごとく育ててきたさくらんぼや梨の木を、他の方に譲ったり貸したりするという

のは、その受け手側の情報として、どこの方でどんな人というのはわかると思うが、その人の中身がわからない。そういったところに、つなぎ目なく譲るといふわけにはいかない。

そういった中で、今ご提案のあったようなさくらんぼの雨避けハウスなどの、農作業の中で続けていくことにネックとなる作業があると思うので、そういったところを通して、元の持ち主の方と、それを請負う方とか重なり合う期間がないと、果樹の場合は特に、感情の部分が非常に大きいと思うので、すごく厳しいんだろうなというふうに見て感じている。

園地継承を考えると、非常に難しくて解決策が簡単には出てこないけれども、作業を請負う人がいない中で、無責任に木を切らないでおいといてくださいと言うことも、難しいかなあというような、ものすごい強いジレンマに襲われている状況。

産直めぐりとしても、もちろんこの櫛引地域に大いにご協力をしたいという気持ちは本当に強く持ってはいるのですが、具体的に何をすることがこの櫛引地域にとっての貢献になるのかというのも非常に難しく、一緒に解決策を見つけていきたいというふうに思っている。

### 【C委員】

話が広がって、良いお話をたくさん聞けたので良かった。観光協会としても、何か我々ができることがあれば、いろんな意味で協力していきたいと思ひますし、逆に我々にもいろいろ言っただいて、この地域のことについて、協力していきたいと思ひている。

先ほどイベントの話をしていたが、黒川能のお祭りが小さくなりつつあるということがすごく気になっている。特に一大イベントの豆腐焼きが無くなるということが大変気にしている。今年の王祇祭では、豆腐焼きが無くなった。初めてのことだと思ひますが、テレビや新聞でも、豆腐焼きが始まりましたと毎年のように出ていたものが、今年はなかった。

正直なところ、これをどうにか続ける方法を考えられないんだろうかというふうに思っただ。当然黒川の地元の人たちが一番大事なところだとは思ひますけども、どういふような形だったら続けられるのか、ということ、私たちが知恵を出してもいいんじゃないかと思ひう。

例えば、黒川能に向けた豆腐焼きのイベントをするので、協力しませんかといういふような応募をしたり、もしくは豆腐焼きをする施設を鶴岡市で作ってもらえないかと提案したり、そういうことも考えられないか。その施設が1ヶ所あれば、人さえ集めれば、そこで毎年することが出来る。

ただ縮小では、後世に繋がらないのではないかと大変心配している。そうなることを避けるために、どういふ事業を行うべきだと市としては庁舎としてはどういふ風に思ひているのか。

### 【F委員】

黒川の祭りに関わる地域の人々の関わり方と、外から入ってくる人間をどう扱ふかの許容量的なものがあると思ひう。いろんな繋がりが重要であるといふのは、非常によくわかることなのだが、フルーツにしても、そのさくらんぼを作っている各農家、ブドウを作っている各農家、その個々の農家の人たちの横のコミュニケーションがうまくいっているんだろうかどうか。例えば、自分のところは自分でやれるからいい、という考え方の人もいると思ひう。

黒川でも、豆腐焼きで豆腐を焼く人間がいなくなっている。それを補助するために、ボランティアで募りましょうといふことで、高校生等にも声かけて少し集めた時に、地域の人たちがそれをどう見たかといふと「どこの誰なんだ」といふふうにする人もいたようだった。だから、そこにコミュニケーションが成り立たない。そういうところを許容していかないと、文化であろうが、産業であろうが、なかなかうまくいかない。

だから、先ほど皆さんもおっしゃったように、現実に人口は減っていくといふのはわかりきっている。その現実を我々がどう受けとめて、自分たちが生きていくために何を生産していくのか、そのためにどういふ援助が必要なのかといふことを、非常に強く、今日は感じさせられた。

でもやはり、そこに何か解決策を持たないと、将来ばかりを見るだけではなく、今を生きていかないといけない中で、行政としての支援のあり方を考えていただきたい。

我々は公益財団法人なので、利益追求はできないが、黒川の氏子の人たちからは、王祇会館でもっと金もうけをやれと言われるが、それはできない。できないので、それに対する支援や事業をこんなふうにやったらどうか、という声はいくらでも立ち上げることができる。

行政は行政として、いろんなやり方を示していただくことは非常に重要なことだろうと思うし、それを待ちの姿勢じゃなくて、声をかけていただき、声かけても駄目なものは駄目だと思うが、その辺まで入り込んでいただけるとありがたい。

今回、大感謝祭に関しては、今年度から始めての開催だったが、そこで一番頑張ってくれたのが、観光協会の代表としてのC委員とくろかわ農人だった。そこで、私も少し不安に思ったのは、これを本当にそのまま続けていけるだろうかということ。

それはなぜかという、その土台がまだ全然しっかりしてない。その土台作りのために何が必要かってなったときに、何をしなければならないかというのを、一緒に考えていただけるとありがたい。

もう一つは、黒川能のような歴史があるところが、これから長く生きていかなければならないということで、長期的なところを我々も考えてはいるけれども、今どうするかというのが一番重大なところだと思う。

#### 【総務企画課長】

祭事や地元に関わることに行政がどこまで入り込むことができるかという部分もあるかと思うが、やはり黒川能については、櫛引の大切な資源であるので、今F委員からあった通り、どういうふうにしていくかということを話し合う場を持つことが大事かと思うので、その辺を、これから一緒に考えていきたいと思う。

#### 【産業建設課長】

秋の大感謝祭については、今年度実施したことを踏まえ、どういったものが必要なのか、その経費等を聞き取りした上で積み上げた予算になる。様々なご意見がありますが、また改めて実行委員会で、ヒアリング等していきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

#### 【市民福祉課長】

先ほど秋山委員から、ゆ〜Townの活用についてご意見をいただいた件で、各地区で委員を選出するというようなお話があったが、確かにそういったお話は今までなかったと、聞いていて思った。実際ゆ〜Townでは、理事の方、入浴にいらっしゃる方が多いんですか、そういった方から、2ヶ月に1回理事会を開いて、事業についていろいろと意見をいただきながら進めているところではある。その中で、やはり同じように食堂がないという意見も出ていて、そのあたりもどうするか、という話も現在一緒に考えているところ。先ほどお話いただきましたように、東の拠点として位置付けられるように、私たちも一緒に考えていきたいと思っているので、まずは、本日はご意見いただき、大変ありがとうございました。

#### 【I委員】

一つご報告をさせていただきたい。資料にまち活事業というものがありますが、実は私もUNiKAと団体でプロジェクトをやってしまして、まち活を活用して、先日荘銀タクトで企画展をさせていただいた。100人のだるまを展示させてもらったのですが、B型作業所さんですか、放課後児童デイサービスさんとか、あと地域の皆さんとも一緒にだるまの絵付けをさせていただいたんですが、今回よかったのが、西片屋地域の公民館を利用して、西片屋や保育園の皆さんにも声かけさせてもらって、25名ほど参加してもらって、地域の方との交流も生まれたというのがよかったと思う。この度はありがとうございました。

#### (2) その他

#### 【B委員】

先ほどD委員から、庄内たがわ農協の支所が移動するというお話があったが、これは組合員さんのご了承と、これからを担っていく皆さんのご了承も得ないと、進められないことなので、今現在検討中である。

あと、ご迷惑をおかけしましたけども、櫛引農工連ですが、1月31日をもって閉店させていただいたが、準備が整い次第にはなるが、しなべきゅうりとぜんご漬に関しては、羽黒農協食品加工の方で生産を再開しようということで現在動いている。

あと、皆さんから好評をいただいていた味よしに関しては、鶴岡市内の鷺田民蔵商店で製造継承していただいて、今現在味よしという名前で販売しておりますので、今まで使っていた方に関しては、そちらの方からお買い求めをよろしくお願ひしたいと思う。

#### 【H委員】

宝谷地区の話ですが、ふるさと村宝谷の中に、触れ合い広場というキャンプ場を今までやっていたが、去年の9月3日の豪雨で、キャンプ場の一部が崩落してしまい、東屋も傾いて崩れかけているということで、危険な状態になったので、ふるさと村宝谷としてはキャンプ場を閉鎖したいと庁舎にも話を出して、4月1日からはキャンプ場は使用しないということになった。そのキャンプ場のところに、鶴岡散策路20選という、ちょうどそのキャンプ場通って散策する道路があるのだが、キャンプ場を閉鎖することによって散策路20選も使えなくなるということで、このことも鶴岡市の方に使えなくなるということを書いて欲しいと思う。

### 5 その他

(1) 公共施設利用料金等の改定について（各担当課長説明）

(2) 鶴岡市の公共交通政策について（地域振興課説明）

---

委員より意見・質問 なし

---

#### 【総務企画課長】

それでは最後に一つお知らせがあります。この4月から、櫛引庁舎の総務企画課と市民福祉課が一つの課になります。朝日庁舎で先行実施しておりますが、地域づくり推進課という名前になりまして、機構改革ということで現在進めております。ただ、扱う業務は全く今までと同じですので、ご理解いただきたい。市民の皆さんにも区長配布等でお知らせしますので、お見知りおきいただければと思います。

それでは以上をもちまして、令和7年度第2回櫛引地域振興懇談会を閉会させていただきます。大変貴重なご意見、ありがとうございました。

以 上